

神奈川

2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」開催を見据え、箱根の3大観光勢力(ビッグ3)が相次いで大型投資を進めている。

小田急グループは25年ぶりの新型車両投入(箱根登山鉄道)とコテージタイプの新施設を建設。西武グループはザ・プリンス箱根など主要3ホテルの大規模改装、藤田観光グループは17年春に新たな旗艦施設を開業する計画だ。

箱根の玄関口、箱根湯本駅に目の覚めるような新型車両が待機している。箱根登山鉄道が箱根観光の看板列車と位置付け、昨年11月から運行している新型車両「アレグラ号」だ。車両前面のほぼ8割はガラス窓、側面にも上下に大きく広がる展望窓が備えられ、開放感あふれるモダンな設計となっており、乗車中には箱根の自然風景をおおいに楽しむことができる。同社の新型車両投入は、サン・モリッツ号以来25年ぶり。

箱根を訪れる外国人観光客は年々増加、東京オリンピック・パラリンピックを控え、さらなる伸長が見込まれることから投資に踏み切った。同社では、箱根の魅力アップに貢献できるとしている。

また、同グループは昨年3月、小田急箱根ハイランドホテルにコテージタイプの新館「森のレジデンス」も建設。同館は露天風呂付き客室8室と愛犬が同伴できる7室で構成、客室面積も平均50㎡と広く、森林に囲まれた上質な大人の滞在を堪能できる高原のリゾート空間を演出している。

西武グループのプリンスグランドリゾートは4月から、増加する国内観光客やインバウンド観光客への対応とエリア展開強化を目的に、主要3ホテルの大規模な改装を行っている。国内やアジア圏で知名度の高いプリンスブランドを前面に打ち出し、集客力を強化する戦略だ。ザ・プリンス箱根は「ザ・プリンス箱根芦ノ湖」、箱根湯の花温泉ホテルは「箱根湯の花プリンスホテル」、ホテル大箱根は「箱根仙石原プリンスホテル」と名称変更する。

「箱根仙石原プリンスホテル」では、寄せ木細工のモチーフをアレンジした露天風呂を新設、外国人に人気のある和風テイストを取り入れ、箱根に根付



小田急グループの箱根登山鉄道・新型車両「アレグラ号」=箱根湯本駅

箱根観光 ビッグ3が大型投資

いた伝統工芸デザインで差別化を図る。「落ち着いた雰囲気露天風呂で、眼前に広がる箱根外輪山を眺めながらゆったりとした時間を過ごしてほしい」とホテル関係者。

第3勢力の藤田観光グループは、拠点施設の箱根ホテル小涌園・箱根小涌園ユネッサンインのうち、渓谷エリア(湯〜とぴあ)を含めユネッサンインを解体、17年春をめどに新たな旗艦施設を開業する。新施設は、約4万2,000㎡のエリアに旧施設の3倍以上の広さとなる地下1階・地上9階建ての新棟を建設する。和洋の全客室(150室)に露天風呂を備えるとともに、異なる眺望が楽しめる大浴場、回遊式庭園、さらに和のおもてなしと食事を提供するレストランなども設置する計画。同グループは、増加する外国人宿泊客にも対応、国内外の顧客一人ひとりのニーズに合わせた総合的なサービスが必要と判断、箱根エリアでのリゾート事業を強化する。

日帰り観光地や通過型観光地からの脱皮は、箱根町や観光関係者、住民が共有する想いであり、これらの大型投資が呼び水となり、2020年に向かって中小の旅館・観光施設などにも新しいおもてなしブームが波及することが期待される。